

第3回 明石市新ごみ処理施設整備技術支援会議

会議の名称	第3回 明石市新ごみ処理施設整備技術支援会議
開催日時	令和2年3月18日(水) 午前10時00分から
開催場所	明石クリーンセンター管理棟2階研修室(明石市)
出席者	<p>【出席】(出席人数 4人/全4人中)</p> <p>委員 浦邊 真郎                      委員 濱田 雅巳</p> <p>委員 平石 年弘                      委員 渡邊 信久</p> <p>【欠席】 なし</p> <p>【事務局】</p> <p>環境部長 石角</p> <p>新ごみ処理施設建設準備担当課長 田中</p> <p>新ごみ処理施設建設準備担当係長 凧</p> <p>新ごみ処理施設建設準備担当係長 丸山</p> <p>新ごみ処理施設建設準備担当係長 福武</p> <p>新ごみ処理施設建設準備担当主任 足立</p>
議題 (内容)	<p>1. 開会挨拶</p> <p>2. 検討項目の確認【資料1】</p> <p>3. 議事【資料2-1-1~2-1-4, 2-2~2-4】</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 次回の会議について</p> <p>(2) その他</p>
傍聴人数	なし(非公開)

新ごみ処理施設整備・運営に係るメーカーアンケート結果について	
委員	アンケートを依頼した 8 社のうち 7 社から回答があつて、有効 5 社だったということを明示している方が良い。
事務局	プラスチックの分別をするしないについては、アンケート結果からは敷地内に入るところで、政策論的にもどちらでも議論ができる状態になったと考えている。
委員	メタン発酵施設は敷地へ入らないという回答ではあるが、売電に拠る CO <sub>2</sub> 削減も意図した施設であると認識している。
委員	メタン発酵は、小規模で焼却だけでは発電できない施設でもエネルギー回収ができるというのが大きな利点である。焼却で発電をしつつ、バイオガスを併設している自治体もある。
委員	フローシートより、残渣が発酵原材料より多いというメーカーもある。減るというメーカーでも、全部消えてなくなるわけではない。 脱離液が多く出るため、この処理も課題である。CO <sub>2</sub> 削減のため敷地内に収まるのであればやりたいという自治体もある。
市場調査の結果について	
委員	事業期間については、アンケート回答のとおりで、20 年ぐらいが適当だと考える。
委員	30 年としたとき参入する事業者があるかどうか、また、事業費が過大になる可能性がある。
ゼネコンアンケート結果について	
委員	工法について、類似の実績があるのか。
事務局	実績はあります。
概算事業費について、及び VFMの評価について	
委員	BTO の財源として起債できるのか。
事務局	公共が起債をし、その分をメーカーに渡すという形である。DBO 方式も起債できるが、DBO 方式との違いは建設期間の負担額を運営期間に平準化させることができる点である。
委員	通常の BTO 方式では全部資金を民間で調達することで金利負担が大きくなっている。起債の BTO 方式は金利が安いので少なく済んでいる。
委員	事業者にとって資金調達額が起債分減るということでメリットであるが、起債の BTO 方式のときにプラントメーカーが手を上げるかどうかである。
余熱利用について	
委員	熱利用をする場合、別置きで蓄熱槽を設けて回収するという技術があると聞いたことがあるが、直接熱回収をするのか。
事務局	試算はあくまで机上計算であり、実際に熱回収するとなると、蓄熱槽を作るという方法となるが、利用割合は減ると考える。

委員	タービン排気の熱は使いにくい蒸気というのが一般論であるため、実現性のある利用先を再検討すること。
処理方式の検討について	
委員	<p>プラスチック分別をしないかで金額的に事業費で1割ぐらいの差がある。</p> <p>メタン発酵施設では、財政支援が大きくなるが、市の負担する費用が多いということで、コストがかかるということがわかる。</p> <p>メタン発酵施設は、市民啓発になるだろうと考え、さらに明石市では海産物などの処理で出てくる水分の多い廃棄物が入ってくるのではないかと考えたが、実態はそういったこともなく、下水汚泥も別施設で有効に活用されておりメタン発酵施設を導入したいという材料はあまり見当たらない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>